



## 平成28～29年度調査研究（2年次）最終報告

読書活動推進における  
学校と公立図書館の連携に関する調査研究

埼玉県立総合教育センター 生涯学習推進担当

## 1 はじめに

本県では「埼玉教育の振興に関する大綱」及び「第2期生きる力と絆の埼玉教育プラン-埼玉県教育振興基本計画-」のもと、「埼玉県子供読書活動推進計画（第三次）」に則り、各学校や公立図書館等において子供たちの読書活動のさらなる推進に向けて取り組んできた。

平成28年12月21日に中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」が出され、次期学習指導要領等改訂の基本的な方向性及び各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性が示された。その中で、「主体的・対話的な学び」に向けては、読書活動のみならず、学びを深めるための情報を収集する学校図書館の役割に期待が寄せられており、公立図書館と連携してその機能を充実させていくことが重要であると述べられている。

また、これからの学校図書館の役割を踏まえた学校図書館の運営に係る基本的な視点を整理する必要性や平成26年の学校図書館法の一部改正による学校司書としての資格・養成の在り方等についての検討の必要性を受けて、平成28年10月に学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議から「これからの学校図書館の整備充実について(報告)」が出された。この中で、学校図書館に期待される役割等について言及された。

各学校においてこれまで取り組まれてきた読書活動推進や学校図書館の運営は、主に司書教諭や学校司書あるいは学校図書館教育担当の教員が中心となって進められてきたが、学校がより専門性の高い公立図書館と連携を図ることで、「読書活動がさらに活性化・活発化されないだろうか」、「読書活動を支える学校図書館のさらなる充実を図ることができないだろうか」、そして「学校図書館が上記答申や報告にもあるような役割を果たすための一助になるのではないか」と考えた。

そこで本研究では、学校と公立図書館の連携に焦点を当て、調査研究を進めていく。本調査研究を通して、双方の連携が促進され、子供たちの読書活動や学習活動がより一層充実することを期待する。

埼玉県マスコット  
「コバトン」

## 2 研究の目的

読書活動のより一層の推進を図るために学校と公立図書館との連携の在り方について調査研究するとともに、読書活動のさらなる充実に向けて具体的な方策を研究開発することが目的である。

## 3 研究の内容（1年次・アンケート調査結果の考察）

県内の小・中学校及び公立図書館の読書活動推進に関する取組や双方の連携に係る実態を把握するために、県内公立小中学校（抽出40校）及び県内公立図書館（市町村図書館）を対象としたアンケート調査を行い、下記のような考察に至った。

※アンケートの詳細は中間報告に掲載（[http://www.center.spec.ed.jp/?page\\_id=257](http://www.center.spec.ed.jp/?page_id=257)）

## 学校における読書活動のさらなる充実に向けて

- できるだけ年度当初に学校図書館の活用の仕方など基本的な内容の研修を行う必要がある。
- 学校図書館の資料の充実に向けて、選定基準と廃棄基準を作成する。
- 子供にとって良い本を選書するためには、各学年等の協力のもと蔵書バランスを考えて決定する。
- 司書教諭と学校司書の役割分担を明らかにして、両者が協力して学校図書館を運営する。
- 読み聞かせボランティア等への研修など、公立図書館で行っていくと効率的である。

## 学校と公立図書館の連携について

- （学校）
- 連携を促進するためには司書教諭や学校図書館担当者がその重要性を認識し、どのように業務に組み込むかが課題である。
- 公立図書館へのフィードバックが行われていないので子供の変容や学習成果を伝えることが必要である。
- （公立図書館）
- 学校への本の団体貸出が連携を図る上でのベースとなるのではないかと学校が望んでいる本の情報交換等を行いながらさらに連携を深めることができる。

## 4 研究の内容（提案）

### 学校図書館資料の選定廃棄基準作成の提案

学校全体の意見を取り入れた選定が重要である。これを実現するためには、管理職、各教科担当者、学校図書館担当職員、学校司書等、専門的な知識を持った職員による図書選定委員会の設置が必要である。委員会を通し、図書予算、蔵書計画、蔵書バランス、子供や教員の要望等を考えた選書が可能になると考える。

子供の読書活動や学習を支える学校図書館にするためには、図書の選定基準を定め、その学校にあった図書を収集し、充実させることが必要である。また、古い図書や傷んだ図書の廃棄は、情報センターとしての機能を合わせ持つ学校図書館を整備するために必要、廃棄に当たっては、そのもととなる廃棄基準の策定を行いたい。選定廃棄基準のモデルはさまざまなものがあるが、全国国学校図書館協議会の例が学校の実情にあっているので、参考にされたい。(http://www.j-sla.or.jp/material/)

学校と地域の連携が進む中で、学校図書館に地域の方が来館することも増えてくるだろう。なぜこの本を購入しているのか説明責任を果たすには、選定基準の作成は必要不可欠と言える。

### 司書教諭と学校司書の業務内容

学校図書館の両輪である司書教諭と学校司書の役割を提案した。

#### 司書教諭の役割

（子供が利用し教員が授業で活用するように促す）

- A 学校図書館に関する計画、実行、評価
  - ① 1年間の見通しを立て、職員会議で提案する。
  - ② 学校図書館に関する行事を企画し、実施する。
  - ③ 学校評価等を活用し、成果と課題を把握する。
- B 学校図書館に関する予算の計画的な執行
  - ① 学校図書館の予算計画を作成する。
  - ② 新規購入図書、備品、消耗品等を購入する。
- C 授業づくりの支援
  - ① 計画に基づいて授業の遂行を支援する。
  - ② 学級担任や教科担当と組んで授業を実施する。
  - ③ 公立図書館と連携するときの窓口となる。
- D 学校図書館に関する連絡調整
  - ① 授業における使用について、連絡調整をする。
  - ② 学校司書と連絡を取り、学校図書館の運営について意見交換し、必要に応じて職員会議等で報告する。

#### 学校司書の役割

（子供や教員が利用しやすいように整理する）

- A 学校図書館資料の整備、充実
  - ① 日本十進分類法に従って整理する。
  - ② わかりやすい表示を作成し、掲示する。
  - ③ 図書館資料の貸出、返却作業を行う。
  - ④ 図書館資料の点検、整備、廃棄作業等を行う。
- B 子供が集まる工夫（一番魅力的な場所に）
  - ① 子供、保護者、教員向けの図書館だよりを発行して、学校図書館の宣伝をする。
  - ② 新着図書の計画的な配架、学校図書館を活用した子供の学習成果物の掲示等、工夫を行う。
- C 教員の授業づくりへの支援
  - ① 授業ができる学校図書館にする。
  - ② 教員から求められた図書館資料を用意する。
  - ③ 学習指導案を保管し、提供する。
  - ④ 授業に使える教員のための資料を積極的に収集し、授業の支援を行う。

## 5 研究の内容（連携を促進させる具体的な実践事例）

### 学校からのフィードバック【小川町立図書館】

公立図書館から学校への図書団体貸出は、学校との連携事業として大切なサービスである。しかし、貸し出した図書が学校でどのように利用されているのか、聞くことはなかった。そこで、図書館から貸した資料が学校でどのように役立っているか、フィードバックを得たいと考え、チェックリストを作成し実践した。

小川小学校5年生 《テーマ貸出一覧》				年 月 日			
NO	書名	著者	出版社	先生のチェック欄(◎○△)★わかる範囲でご協力ください	よく使った資料	学年に合っていたか	自由にお書きください
1	椋鳩十の小動物物語	椋 鳩十//作	理論社				
2	椋鳩十のネコ物語	椋 鳩十//作	理論社				
3	椋鳩十の名犬物語	椋 鳩十//作	理論社				
4	椋鳩十の野犬物語	椋 鳩十//作	理論社				
5	椋鳩十の愛犬物語	椋 鳩十//作	理論社				
6	椋鳩十のキツネ物語	椋 鳩十//作	理論社				
7	椋鳩十のサル物語	椋 鳩十//作	理論社				
8	椋鳩十のシカ物語	椋 鳩十//作	理論社				
9	椋鳩十のシカ物語	椋 鳩十//作	理論社				
10	月の輪がマ	椋 鳩十//著	あかね書房				
11	椋鳩十えんぴつ 23	椋 鳩十//作	あかね書房				

#### チェックリストの項目

「よく使った資料」…多くの子供に活用されたか  
 「学年に合っていたか」…子供たちに内容が適切だったか  
 ※記入方法は◎○△の3つの記号で記入してもらった。

学校から戻ってきたチェックリストに目を通すと、人気のあった本や、内容が子供に合っていた本、子供には容易であった本など、子供がどのように資料を利用しているか、目に浮かぶようにわかった。また、子供が作成したリーフレットを学校が送ってくれたので、どの本が実際にリーフレットの作成に活用されたか把握することができた。

学校からのフィードバックを書けるチェックシート

#### 【成果】

- 普段、公立図書館に来ない子供たちがどのような本を手にするのかがわかった。
- どの資料が、子供たちにとって有効だったか、リーフレットに活用しやすかったかなどの情報を残すことができた。
- 教員がチェックリストに誰がどの本を借りたかをメモすることで、子供一人一人の利用状況がわかり、個に応じた指導が可能になった。

#### 【課題と展望】

団体貸出という事業を通して、当該学年の子供達に「出会って欲しい本」をどう紹介し手渡すか、並行読書時のブックトークや関連資料のリストの作成などを通して、どうしたら子供自身が公立図書館へ足を運んでもらえるか考えていきたい。また、貸出一覧表を子供用にアレンジし、各自が1枚使用することで資料を利用しやすくなるとともに、利用の把握を教員がしやすくなることも考えていきたい。

## 連携パスファインダー〔三郷市立図書館〕

「パスファインダー」とは特定のテーマの資料や情報について、その図書館にある資料等をまとめたシートのことである。これがあると調べたいことの資料をすぐに探し出すことができるという利点がある。

しかし、公立図書館ではよく知られているパスファインダーであるが、学校ではあまり知られていない。調べ学習で何かを調べるときに、学校図書館と地域の公立図書館の資料がまとめられたパスファインダーがあれば、子供が一人で本を探ることができ、子供に対して自ら調べることができる力を付けることができると考え、この取組を実践した。

オリンピック		の資料をさがす
2回目の東京オリンピックを楽しみたい		
1 手がかりとなるキーワード		
古代オリンピック	目的	競技種目
近代オリンピック	1回目の東京オリンピック	聖火
五輪マーク	参加人数	選手
2 学校図書館資料		
分類	書名	出版社
031ソ	総合百科事典 ポプラディア	ポプラ社
059ア	朝日ジュニア学習年鑑	朝日新聞出版
280セ	世界史有名人事典	PHP出版
289	メダルへの道 ニッポンのトップアスリート	夕文社
	オリンピックのアスリートたち シリーズ4冊	夕文社
290セ	帝国書院地理シリーズ 世界の国々	帝国書院
290	ナショナルジオグラフィック 世界の国	はるぶ出版
290セ	国別大図解 世界の地理	学研
780オ	オリンピック・パラリンピック大百科	小峰書店
780ス	スポーツ年鑑	ポプラ社
780ス	スポーツなんでもくらべる図鑑(全3巻)	ベースボール・マガジン社
3 学校にあるその他の資料		
(冊子・パンフレット・新聞・ビデオ・デジタルコンテンツ)		
種類	タイトル	発行部
雑誌	Sports Graphic Number	文藝春秋
4 公共図書館資料		
分類	書名	出版社
780イ	しるべよう! 知っているようで知らない東京オリンピック1〜3	ベースボール・マガジン社
780オ	オリンピックまるわかり事典	PHP研究所
780オ	オリンピックヒーローたちの物語	ポプラ社
780オ	オリンピック・パラリンピック大百科 1〜7	小峰書店
780オ	オリンピック絵事典	PHP研究所
780オ	しるべよう! かんがえよう! オリンピック 1〜4	ベースボール・マガジン社
780コ	子どもオリンピック新聞	世界文化社
780シ	こどもならわかるオリンピックの歴史Q&A	大月書局
780キ	JOAオリンピック小事典	メディアハル
780キ	近代オリンピック100年の歩み	ベースボール・マガジン社
780夕	オリンピック全大会	朝日新聞社
	新聞記事検索データベース	
5 関連機関		
機関名	所属・URL	
日本オリンピック委員会	オリンピックを学ぶ	<a href="http://www.joc.or.jp/news/">http://www.joc.or.jp/news/</a>
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会		<a href="https://tokyo2020.jp/">https://tokyo2020.jp/</a>

黄色の部分は、学校図書館資料や学校の中にあるその他の資料について記入する欄

赤色の部分は、公立図書館が所蔵する資料、インターネットで調べられるように関連機関とそのURLを記入する欄

学校と公立図書館にある資料がすぐわかる

### 【成果】

- 子供も学校と地域の公立図書館にどんな資料があるかを把握することができ、子供たちが必要に応じて、自主的に複数の資料を手にしやすくなった。これにより指導する教員も、資料探しに費やしていた時間が削減され、じっくりと内容を指導する時間が確保できた。
- 図書館にとっては、各学校にどのような資料があるかを把握することができた。

### 【課題と展望】

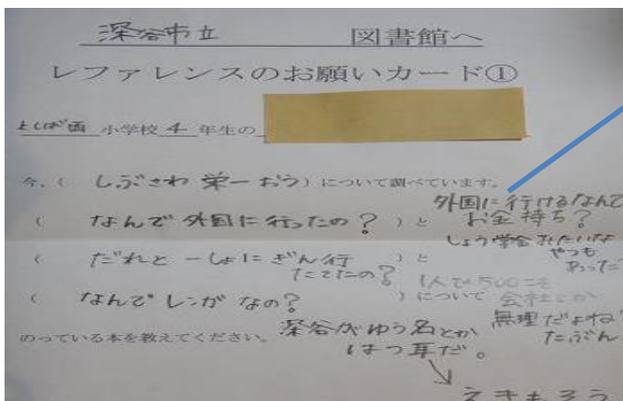
学校司書の配置があればパスファインダーを作成することができるが、配置がない学校では誰が作成するのが課題である。しかし、学校の図書委員会の活動として、子供が作成することは可能である。教員から作成してほしいテーマとそれを使用する時期を聞き、計画的にパスファインダーの作成をしていけば、多くのテーマを準備することが可能であり、子供たちにとってもよい学習になるだろう。

## 子供用レファレンスカード〔深谷市立上柴西小学校〕

子供が調べ学習で使う資料を探すために、地域の公立図書館に行くことがある。しかし、子供はどのように聞けば必要な本を見つけられるかがわからず、子供に対応する図書館職員もなかなか子供から探している本の情報が引き出せず、困ることが多いと聞く。そこで子供が公立図書館に行ったときに、調べ学習に必要な資料を集められるように、子供用レファレンスカードを作成することを計画した。子供用レファレンスカードを活用することで、子供が調べたいことを図書館職員に伝えることができ、図書館職員もさまざまな角度から資料を集め、複数の資料を子供に手渡せることが可能になると考え、この実践を企画した。

※レファレンスとは

図書館利用者が学習や調査等を目的として必要な情報や資料を探す際、図書館員が検索・回答してこれを助ける業務のこと。



子供が書いたレファレンスカード

### 学校と図書館の視点の違い

左写真の子供が書いたレファレンスカードをみると、文面に合わせて書けていないので、教員はシートに書かれている文面に合わせて書き直しをさせてしまいがちである。しかし、図書館職員にとってはこの方がさまざまな情報が書いてあり、いろいろな角度からの資料を用意しやすいという。教員は、あまり形式にとらわれず、児童の自由な発想で書かせた方がよいという点に注意したい。

### 教員にも有効なレファレンス

調べ学習を計画するとき、教員が公立図書館に対してどんなテーマが適切か、公立図書館にどんな資料があるか、相談できる。教員の負担軽減にもつながるのでぜひ活用してほしい。

### 【成果】

- レファレンスを利用した子供からは、「すぐに欲しい本を手に入れることができた。」と感想があり、その有効性が確認できた。
- 子供にレファレンスを広められた。また、子供をとおして保護者にもレファレンスを周知できた。

### 【課題と展望】

レファレンスについて、学校全体で計画的かつ継続的に指導していくことが大切である。レファレンスシートを学校と公立図書館の双方に置き、子供が継続的に活用できるようにしておく必要がある。

## 図書紹介ポップの作成と図書館への掲示【本庄市立児玉中学校】

夏休みの宿題として書いた読書感想文をもとに、その本を紹介するポップを作成し、それを本庄市立図書館児玉分館に展示することを計画した。子供にとっては学びの意欲につながり、図書館にとっては中学生の来館者を増やすことにつながると考え、実践した。この取組は、『図書館だよりこだま』に特集記事を組み、地域にも周知した。

9月号…「児玉中学校とのコラボ企画進行中！！」

10月号…「児玉中学校とのコラボ企画 中学生製作のポップを展示します！」

11月号…「2017 児玉分館 秋の読書週間企画 中学生おすすめの本、展示中です」



児玉分館の特設コーナーに展示された

書名・著者名・発行所名・発行年、キャッチコピー、引用する文章、あらすじ、本の紹介・関連する本の情報などをまとめた。



児玉分館の蔵書にあるものを中心にポップを選び展示した。

また、今回の取組を参考にして、児玉分館が新たに本を購入してくれたので、その本のポップも展示した

この取組に向けて、企画の約4か月前から入念に担当者同士が打ち合わせを行った。打ち合わせを持つことで、互いの考えや特性を理解することができ、より深い連携へとつながっていく。

本が貸出中になったときは、貸出中を知らせて、カウンターで本の予約できるというお知らせが表示されるように工夫した。



### 【成果】

- ・読書意欲の喚起や子供の取組の幅が広がった。
- ・地域の方に対して中学校の教育活動への理解を深めた。
- ・公立図書館にとっては、中学生の読書の趣向を知ることができ、新規図書の選書や子供向けのイベントの企画など、公立図書館運営の参考にすることができた。

### 【課題と展望】

年間を通しての緩やかな連携事業の在り方を模索したい。学校と公立図書館が互いの年間計画を把握し、早めに連携事業の打ち合わせを始めたい。連絡会議を年度当初の4月に行い、計画的な取組が必要である。連携を継続させることで、地域の子供たちの読書活動をさらに推進できるものとする。

## 6 調査研究のまとめ

### (1) 2年間の調査研究のまとめ

#### ア 学校の読書活動推進について

学校は、読書活動に関する研修を行い、子供にとっての読書活動の意義を教員が学ぶとともに、「量」から「質」を重視した読書活動へ転換していく必要がある。また、子供の主体的・対話的で深い学びを実現するためにも、授業における学校図書館の活用方法について研修することも必要である。授業を通して、教員が子供と本をつなぐ役割も担いたい。

#### イ 学校図書館の充実に向けて

司書教諭と学校司書が互いの役割を明確にして、協働していくことが必要である。また、学校と地域の連携が進む中、図書の選定廃棄についても説明責任が求められることも想定される。校長は学校図書館長として、リーダーシップを発揮し、図書の選定廃棄基準の策定、図書選定委員会の設置等、積極的な学校図書館の運営をしていきたい。

#### ウ 学校と公立図書館の連携の実践事例について

4つの実践事例の取組を通して、学校も公立図書館も互いをよく理解していない部分が多いことがわかった。互いを知り、特性を理解することで、それぞれの強みを生かした連携ができる。はじめは考え方の違いから困難なこともあるが、小さな成功を積み重ねるうちに、さまざまなアイデアが浮かび、楽しくなっていく。連携は「社会に開かれた教育課程」へ向けた大きな一歩になる。

### (2) 学校と公立図書館の連携へ向けた提言

「まずは学校から公立図書館へ電話を一本かけてみる」、これが学校と公立図書館の連携への第一歩である。そして、担当者が顔合わせをして、顔の見える連携へすすめていきたい。地域の子供たちの学びのために、お互いに楽しみながら、無理をせず、少しずつ連携をすすめ、継続していくことが大切である。

### すぐに使えるテンプレート(例)

- ・団体貸出のフィードバック
- ・パスファインダー
- ・子供用レファレンスシート



埼玉県マスコット「コバトン」

右のQRコードから、テンプレート(例)や研究報告書をダウンロードできるよ。テンプレートはデータをダウンロードできるから、学校や図書館で使いやすいようにアレンジして活用してほしいな。

